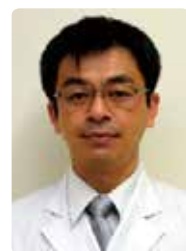


# 胸椎の変性 (加齢による) 疾患

整形外科部長 兼 診療放射線科部長  
向山 啓二郎

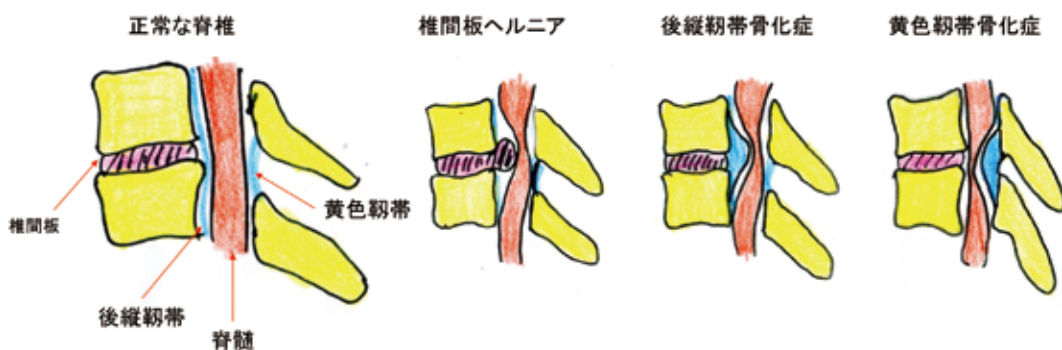


胸椎とはせぼねの首の部分(頸椎)と腰の部分(腰椎)の間にあり、12個の脊椎からなります。胸椎には肋骨がついていて、これが前の方に回って胸骨と呼ばれる骨と連結し、胸郭を形成します。胸郭とは肺や心臓など胸の部分の内蔵が入っている空間です。

胸椎はこのように前方との連絡があるため、動きが少なく安定しています。そのため頸椎や腰椎に比べ加齢による病気(変性疾患)が起りにくいですが、やはり神経の圧迫により困った症状を起こすことはあります。今月は胸椎の疾患について、特に代表的な胸椎椎間板ヘルニア、脊柱管内の靭帯骨化症について触れたいと思います。

## 胸椎椎間板ヘルニア

腰椎に比べてまれな疾患です。この部分で発生したヘルニアは脊髄を圧迫しておなか周りや足に症状を出します。具体的には、足の動きが悪くなって歩くときにふらつく、力が入らないといった歩行障害、痺れやおなかの部分の締め付け感、おしっこがスムーズに出ない、漏ら



してしまうといった症状です。症状が重い場合にはそのような症状が戻らなくなってしまうことがあり、早めの手術が必要な場合があります。ヘルニアが横の方に出て神経根を圧迫すると胸やおなかの横の部分に痛みやしびれが出るいわゆる肋間神経痛のような症状を出すこともあります。このように、胸椎で神経の圧迫症状が起きると、体の胴体の部分と下肢に症状が出ますが、手に症状が来ることはありません。

## 胸椎の脊柱管内靭帯骨化症

先月頸椎のところでも紹介した胸椎後縦靭帯骨化症は胸椎でも起こることがあります。そのほかに脊髄の後ろの方にある黄色靭帯と呼ばれる靭帯が骨化を起こしておおきくなり、やはり脊髄を圧迫する病気があります。これは黄色靭帯骨化症といいます。いずれも腕や手に症状が出ることはありませんが、歩行障害や排尿の障害が起こることがあります。この部分の手術は難しいことが多いですが、一般的に靭帯骨化症は待つても自然に消えてなくなってしまうこ

とを期待することは難しく、症状が悪くなってくる場合には手術治療を考えます。

胸椎の部分での障害は数は少ないけれど起これば重い症状になることが多く、特に脊髄障害が強ければ元に戻らなくなってしまうことも多いため、軽い症状ですつとどまっているもの以外は手術的治療が必要となります。

似たような症状でお困りの方は整形外科でご相談ください。



脚の脱力や突っ張った感じ  
歩行障害  
足、脚のしびれ、痛み  
体幹のしびれ、痛み、締め付け感